聖霊降臨後最終主日　　2026年１１月２２日

風のように　甘木教会

主任牧師：崔大凡　　牧会委嘱牧師：竹田孝一



王は答える。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」　　マタイによる福音書２５：４０

【説教要旨】

２０２６年の教会の暦は終わります。一年を振り返って見るとき、決して希望の持てることばかりではなかった。むしろ教会にとって明るい材料は乏しかったのではないでしょうか。

しかし、このような時にあっても私たちの視座は違います。希望のないところにあっても希望をもって前に進むことができます。なぜなら私たちの教会の歩みは私たちの力でその歩みを確かにしているのではないからです。

19 また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。20 神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、 21 すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。 22 神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。 23 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。　　エフェソ 1:１９～２３

今日のマタイ福音書です。「**人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、**」とありますように、それは終わりの時の審判について記

されています。
その根拠は『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』**というのです。**
よく注意してみていますとかけられた本人はこれに気づかずにいるということです。「すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。 いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』」とあるように自分がしたことに気づかずにいるということです。ここで注目したいのは天国にはいるかどうかということを気づかずにいるということです。私たちが常に意識し、これをすれば天国にいく、だからこうするのだというのではないのです。びくびくした生き方でなく、自由奔放に生きつつなお、その生き方が天国に行くことができるような生き方になっているというのです。基本があって、それが身についているということです。意識しなくても体が，意識がそうさせるというのです。それが絶大な働きをなさる神の力です。
「そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」という言葉が示しています。「わたしにしてくれた」という後半の言葉に耳を傾けたいのです。私たちのひとつひとつの行いにイエスさまが共にいてくださるということです。マタイが私たちに伝えたいイエス・キリストの強いメッセージとなっているということです。
「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は『神は我々と共におられる』という意味である。
「イエスが共におられる」という信仰において、私たちは、

知らず知らずのうちに、主のみ心を行える存在となっているということです。この「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」ということを強烈に生き方としたのがマザー・テレサです。
テレサは「私たちは二十四時間、飢える人の中で、裸の人の中で、家のない人の中で、望まれず、愛されず、世話されることのない人の中で、キリストと共にいるのです。
イエスは言っておられます。『わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』」といっています。今日の救いの鍵となる言葉をもって自分の生き方を決めていくのですが、その基本、つまり信仰は「キリストと共にいる」ということです。
　さらにキリスト共にいるということは、「わたしの中でキリストは働きます。わたしの中でキリストは考えます。わたしの目を通してキリストは見つめます。わたしのことばを通してキリストは語ります。わたしの手でキリストは働きます。わたしの足でキリストは歩きます。わたしの心でキリストは働きます」というのです。もはや生きているのは、私でなく、わたしと共にいてくださるキリストであるというのです。パウロは「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしのうちに生きておられるのです」というようにわたしのうちにいますキリストが、働かれわたしを主のみ旨を行えるような人とかえられているのだという信仰が大切なのです。だから「すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。 いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』」とならざるをえない、というのはもはや自分がしたのではなく生きた共にいてくださるキリストがそうしてくださるという心の目を開いて終わりの時、審判をむかえましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



アメリカの国務長官が、国際裁判所について「『剣を帯びる者に法律を説く』ことのないよう警告した。」と報道されました。まさにこれは本末転倒ではないでしょうか。力あるものには法はないということに等しいではありませんか。昨今の大国の横暴がここにあります。まさにこれは本末転倒ではないでしょうか。力あるものだから法を守ることではないでしょうか。力ある者が富を独占し、世を我儘に歩き回っている。聖書が終わりを説いているような世界がここにあります。終わりが近づいています。

「目を覚ましていなさい」という主の言葉を思い出します。ますます聖書を読む時代にきています。

園長・瞑想？迷走記。



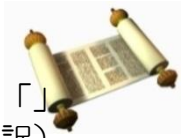
年長さんが、高良山登山という計画を立てました。いつも思いもよらないことをしてしまう元気な子どもたち、といっても、体力のない子どもたちが本当に登れるのだろうかという心配もあり、登山前の練習で、街散歩をして準備をしました。前途多難！

が、登山を楽しく、だめだと諦めずに、みんな登れたのです。

「猪が出たらどうしよ」。「N運転手さんがいるから大丈夫だよ」、「戦ってあげるから100円くれるかね」と、いろいろ楽しい会話しながら、訓練中の自衛隊隊員から「頑張ってね」と声をかけられると「おじさんも頑張ってね」と返す、クリスマス劇の練習も始まったばかりでうろ覚えのクリスマスソング「わたしは小さい羊飼い」を大声で歌っていた男の子に女子は「あなたはうるさい羊飼い」と歌ってかえし、楽しく歌い、会話しながら登れたのです。「案ずるより産むが易し」、子どもは凄い！

担任は感動、興奮し、顔明るく、はずんだ明るい声で「おもしろかった」と何度も、何度も繰り返していました。こちらにもおもしろさが伝わってきました。「おもしろい」と言う保育者、保護者、子どもたちと一緒にいることは何と幸せでしょうか。

日毎の糧



聖書：主に向かって喜び歌おう。救いの岩に向かって「」
喜びの叫びをあげよう。詩篇９５：１（新共同訳）

ルターの言葉から



自分の働きに信頼を置くようなことがあってはなりません。神の祝福と、神の力ある守りとが生長に不可欠なのです。『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷尭爾編訳　いのちのことば社

「さあ」

「本詩は５０篇、８１篇とならび《祝祭三詩篇》に数えられる。詠われる内容は、前半（１節～７節）と後半（８節～１１節）で一変する。前半部は『われら』自身に促すようにして詠われる、ヤハウェへの歓呼と拝礼の勧めである。後半部は、それに対して、荒野時代の父祖たちのように心を頑なにしてはならない、と戒めるヤハウェの警告である」①

今週の礼拝の詩篇唱は、前半である。私たちが、喜びをもって、神の確かな救いを拝礼することである。

この詩篇が教会の暦でよれば、最後の日に唱えられるは意味があると思う。「深い地の底　4節」とあるように暗闇しかない世界と言って良いだろう。2026年はどんな世界だっただろうか。私は深い、深い悪魔に支配された、世界の終わりを予感させる世界であったように感じる。私にとって、早く、お迎えが来ないかと感じさせる生きづらい世界であった。しかし、私たちが聞くみ言葉は、「深い地の底もまたみ手の内にある」である。たとえ闇が覆うような深い地の底にあって、神ははたらいているのだということである。早く、お迎えが来ないかと感じさせる生きづらい世界であったが、今年のも神のみ手にあったことを思い起こしたい。改訳、共同訳聖書は、「さあ」と促しの言葉が出てくる。「さあ、主に向かって、喜び歌おう。」というように、「さあ」という促しのことばを私の声となって、一年を感謝して、「さあ、主に向かって、喜び歌おう。」と心の内から叫びたい。

①詩編の思想と信仰Ⅳ　　月本照男　　新教出版

祈り：この一年も神の御手に守られてきたことに気付き、心のそこからあなたに向かって、喜び歌えますように。アーメン。

甘木通信



わたしは知った　すべて神の業は永遠に不変であり　付け加えるも除くことも許されない。

コヘレト３章１４節

１．神は見捨てず、ずっと待っている

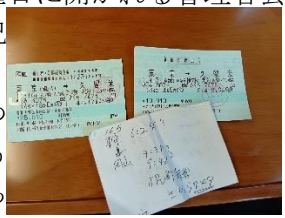
今週で教会の暦は一年を閉じる。この一年を振り返る時が今週だと思う。小友聡先生は「人生はヘベル（空）、束の間です。そのヘベルの人生は、しかし、神が支配する『時』で満ちています。不思議な時で満ちた人生は、謎に満ちていると言うほかありません。」と言われている。今年も、さらにもっと、もっと人生を振り返ると束の間ですが、実に不思議に満ちた人生でした。

貧しい家庭に生まれた私は、この貧乏からどう抜け出そうか毎日、毎日、考えていました。高度成長を生きた私は常に上昇志向にいました。高学歴＝高収入が貧しさから抜け出す手段だと思っていました。上へ、上へと。しかし、大学入学試験を前にして、大病をし、頓挫してしまいました。落ちて下って行ったのです。その時、出会ったのは、通学路にあった安普請のみすぼらしい教会でした。そこでキリスト、神と出会ったのです。私のつまらない人生をその懐に抱いてくださり、「よく頑張った、よく頑張った」と肯定されたように感じた。そして、この肯定感はどこからくるのか、もっと、もっと学びたいと病気が完治されていないときに神学校の試験を受け、合格し入学しました。まだまだ蛋白尿が出ていて、副腎皮質ホルモン（ステロイド）を飲んでいましたが、神学校に入り、蛋白尿も出なくなり、無理がきくようになり、テニスまで出来るようになりました。病気のことを忘れてしまいました。

（甘木日記）土）一つのことを始めると約束していたことを忘れた。集会を忘れる。**日**）礼拝後、新幹線で東京へ。**火**）朝から羽村幼稚園の事務作業。管理者会議。議事録原案を作り、６時。もう帰られない。東京で泊。**水**）切符を買い間違えていた。久留米の幼稚園へ直行。**木**）松崎保育園で教会暦は終わり、アドヴェントに入ることを話す。甘木で春花壇の準備。**金**）頑張った日善幼稚園の先生にチョコラ、キャラメルパンを。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）一日空いていると思い、日善幼稚園の庭に堆肥を撒き、家の不用品をディスカウントショップに売りに行き、ウェストでうどんを食べた午後から雨。浴室の配管の口を修理していただき、配管の掃除をしていると電話がくる。今日、甘木教会は「キリスト教講座」だったことをまったく忘れていた。迷惑をかけてしまった。主日の準備、月曜日に開かれる管理者会議の書類整理。夜に甘木教会へ。泊。日）こども祝福式の礼拝。信徒の子ども、聖和幼稚園の卒園生、松崎保育園の子どもが保護者と出席くださる。いつもより教会に活気がある。子どもは人を元気にする魔法をもっていますね。一緒に祝福された。ペコちゃんの飴。昼に新幹線で東京に。月）朝から羽村幼稚園の管理者会議、議事録を作成して園を立つ時、もう６時。預かりの最後の園児を送って、帰る。新橋に寄り一杯ひっかけつつ恋の悩みの青年に付き合う。若いっていいね。火）新幹線の切符乗車日を間違えて購入し、特急料金を余分に払う。痛い出費よりも乗車日を間違って購入していたことにショック。ブラジル時代に大変にお世話になり、私の葬儀説教を頼んでいたＩ牧師夫妻が久留米に来てくださり、昔話に花を咲かす。水）Ｉ牧師と一緒に秋月へ。かつて江戸時代の禁教前、キリスタンが多くいた町。散策するがＩ牧師は病後で歩き過ぎたかと心配。禁教下でも信仰を持ち続けた大刀洗・今村にある工事中の天主堂を訪問する。駅に送った後幼稚園に行き、18 時までいる。Ｉ牧師も無事に帰宅したという連絡があり、ほっとする。周囲を気にせずまっすぐ突き進む猪突猛進（ちょとつもうしん）の人だったが互いに老いて休み、休み歩き出した。木）午前中、ホームセンターにより春の花を購入し、松崎保育園で職員の聖書の学び、子ども礼拝、教会暦に話す。午後から甘木に行き、春花壇の用意。季節的には遅いがゆっくりと準備しよう。金）日善幼稚園の先生方も今週も頑張ってくださった。そこで新しく開いたパン屋のチョコラ、キャラメル食パンを購入してみんなで食べる。お疲れ様。





（工事前の天主堂）

脳接続障害（認知能力の低下）：今週も人の名前が出てきませんでした。電話の会話の中で、長いお付き合いしている人の名前が出てこないのです。名前が出ない、困ったものですが、名前が浮かんだときは嬉しいものですね。（認知力の低下について記していきます。）